

産業廃棄物処理計画書

令和7年 6月 16日

広島市長様

提出者

住所 広島市安佐北区三入1丁目19番7号

氏名 広島森永乳業株式会社

代表取締役社長 竹塚 真義

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 082-818-3131

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	広島森永乳業株式会社
事業場の所在地	広島市安佐北区三入1丁目19番7号
計画期間	令和6年4月～令和7年3月
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	091 畜産食料品製造業
②事業の規模	資本金 215,000,000円
③従業員数	159名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none">・汚泥→脱水（自社中間処理）→処理委託（肥料化）・動植物性残さ→処理委託（肥料化）・廃油→処理委託（油水分離）→再生燃料又は焼却処分・廃プラスチック→処理委託（選別）→RPF（廃棄物固形燃料）化・ガラスくず（蛍光灯）→処理委託（選別）→再生利用・廃酸→処理委託（焼却無害化）→埋め立て・木くず→処理委託（RPF化）

別紙1
(廃棄物処理法-産業廃棄物処理計画書)

現状:前年度(令和6年度)実績量
計画:今年度(令和7年度)計画量

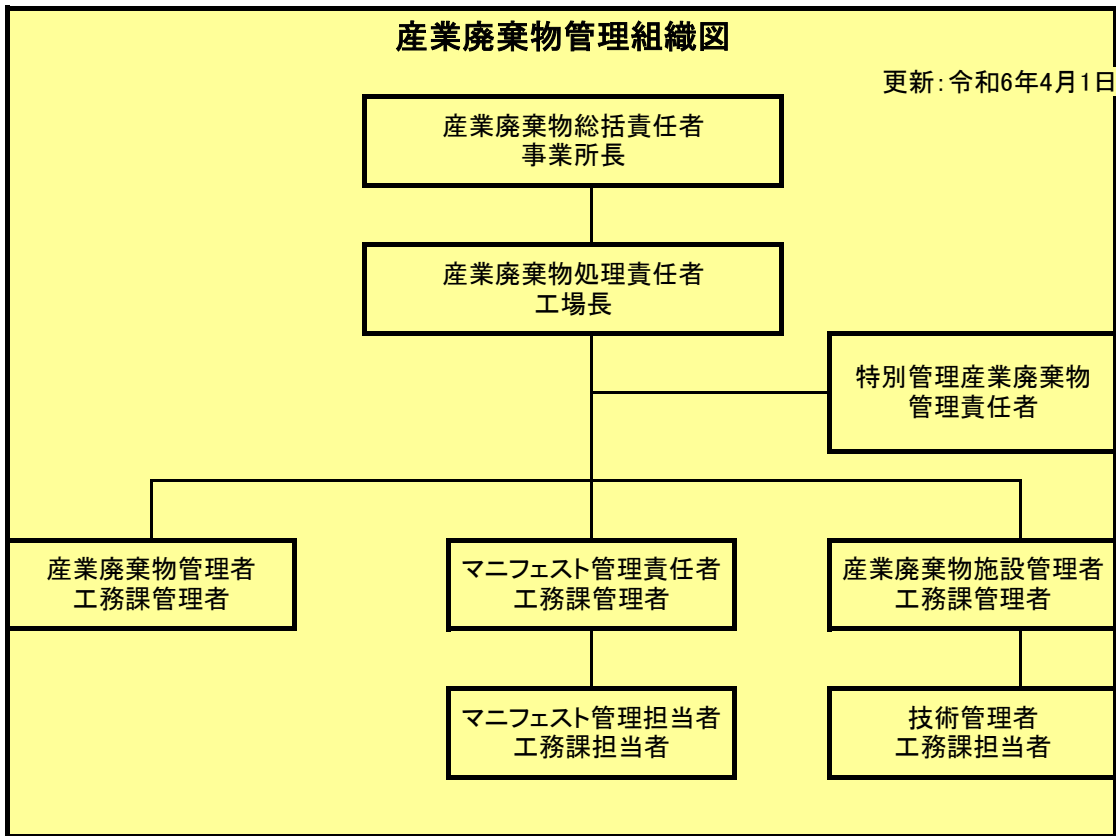
産業廃棄物の種類	単位:トン/年																		
	排出抑制に関する事項		自ら行う再生利用に関する事項		自ら行う中間処理に関する事項				自ら行う埋立処分等に関する事項		処理委託に関する事項								
	排出量		自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		全処理委託量		優良認定処理業者への処理委託量		再生利用業者への処理委託量		認定熱回収業者への処理委託量		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量
現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画
燃え殻																			
汚泥	4008.85	3928.67					4008.85	3928.67			481.14	471.52			481.14	471.52			
汚泥(紙マニフェスト排出分)	7.72	7.57									7.72	7.57			7.72	7.57			
廃油	0.302	0.30									0.302	0.30	0.302	0.30	0.302	0.30			
廃酸																			
廃アルカリ	0.6	0.59									0.6	0.59	0.6	0.59	0.6	0.59			
廃プラスチック類	72.59	71.14									72.59	71.14	72.59	71.14	72.59	71.14			
紙くず																			
木くず	0.49	0.48									0.49	0.48	0.49	0.48	0.49	0.48			
繊維くず																			
動植物性残さ	318.74	312.37									318.74	312.37			318.74	312.37			
動物系固形不要物																			
ゴムくず																			
金属くず(紙マニフェスト排出分)	0.004	0.00									0.004	0.00	0.004	0.00	0.004	0.00			
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	0.32	0.31									0.32	0.31	0.32	0.31	0.32	0.31			
鉱さい																			
がれき類																			
動物のふん尿																			
動物の死体																			
ばいじん																			
水銀使用製品産業廃棄物	0.1	0.10									0.1	0.10	0.1	0.10	0.1	0.10			
廃塗料	0.34	0.33									0.34	0.33	0.34	0.33	0.34	0.33			
合計	4410.056	4321.85	0	0	0	0	4008.85	3928.67	0	0	882.35	864.70	74.746	73.25	882.35	864.70	0	0	0

※上記に分類できない産業廃棄物がある場合に限り、空欄へその産業廃棄物の具体的な名称を記入してください。

別紙2(廃棄物処理法-産業廃棄物処理計画書)

【参考様式】
記載項目を満たしていれば、任意の様式で作成したものでも提出可能です。

1 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項(管理体制図等)



2 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

<p>①現状 (これまでに実施した取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 総排出量t 4410.05t ・取組: <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄プラスチックの燃料・有価物化。 ・脱水ケーキ排出部にブロワーを設置し乾燥により含水率向上させる。 ・TPM活動を通じ食品廃棄物削減に取り組む。 ・処理委託先を選定し、食品廃棄物及び廃棄プラスチックの有価物化を検討していく。
<p>②計画 (今後実施する予定の取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画目標: 前年度比2/パーセントの削減 総排出量t 4321.85t ・取組: <ul style="list-style-type: none"> 上記取組に加え ・MLSSの見直し。現在の廃水状態に合った数値に見直しすることで脱水機稼働回数を低下させる。 ・引き続き廃棄プラスチックと有価プラスチックを分別する取組を推進していく。

3 産業廃棄物の分別に関する事項

<p>①現状 (分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 委託量t 72.59t ・取組: <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄プラスチックと有価プラスチックを分別する取組を推進していく。
<p>②計画 (今後、分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画目標: 前年度比2パーセントの削減 ・取組: <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き廃棄プラスチックと有価プラスチックを分別する取り組みを推進していく。

4 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

<p>①現状 (これまでに実施した取組)</p>	<p style="text-align: center;">該当なし</p>
<p>②計画 (今後実施する予定の取組)</p>	<p style="text-align: center;">該当なし</p>

5 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

<p>①現状 (これまでに実施した取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 総排出量t 4008.85t ・目標: 前年度比2パーセントの削減 ・取組: <ul style="list-style-type: none"> ・脱水ケーキ排出部にブロワー設置し、乾燥により含水率を向上させる。 ・TPM活動を通じて汚泥脱水機を維持管理する。 ・沈殿槽界面測定装置を利用し、汚泥濃度を高めることで、脱水汚泥排出量を減少させる。
<p>②計画 (今後実施する予定の取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画目標: 前年度比2パーセントの削減 ・取組: <ul style="list-style-type: none"> ・MLSSの見直しを行い下剤の廃水状態に合った数値へ変更することで脱水機稼働回数を低下させる。 ・脱水機満杯センサーの位置を下げ満杯量を低下させることで排出量を削減する。

6 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

<p>①現状 (これまでに実施した取組)</p>	<p>該当なし</p>
<p>②計画 (今後実施する予定の取組)</p>	<p>該当なし</p>

7 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

<p>①現状 (これまでに実施した取組)</p>	<p>・現状:全処理委託量t 882.35t</p> <p>・取組:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分別排出の徹底により有価物量を増加させる。 可能な限り優良認定処理業者から選定する。 ・廃棄プラスチックを包装メーカーと連携して リサイクル燃料化し、有価物量を増加させるため、 処理委託先を調査、選定していく。
<p>②計画 (今後実施する予定の取組)</p>	<p>・計画目標:前年度比2パーセントの削減</p> <p>・取組:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き分別排出を徹底することで有価物量を増加させる。